

# 第1回 中央区自治協議会 会議録

開催日時	令和6年4月26日(金曜) 午後2時30分から午後4時30分まで		
会場	中央区役所 5階 対策室		
出席者	<table border="1"><tr><td>委員</td></tr></table> <p>渡辺(雅)委員、玉木委員、豊島委員、米倉委員、高田委員、上之山委員、唐沢委員、伊藤委員、野澤委員、樋口委員、山岸委員、長谷川委員、井上委員、吉岡委員、小林(栄)委員、小林(寿)委員、田中委員、渡部委員、佐藤委員、八木委員、高橋委員、土田委員、小奈委員、森本委員、松川委員、桐生委員、若木委員、北川委員</p> <p>出席 28 名 欠席 4 名 (鈴木委員、渡邊(俊)委員、寺井委員、高見委員)</p> <table border="1"><tr><td>事務局・説明者</td></tr></table> <p>[新潟市] 市長 [新潟市教育委員会] 教育支援センター所長、中央図書館長補佐、中央公民館長 [中央区役所] 区長、副区長、窓口サービス課長、健康福祉課長、保護課長、建設課長、東出張所長、南出張所長、地域課長、地域課長補佐</p>	委員	事務局・説明者
委員			
事務局・説明者			
議事	<p>1 開会</p> <p>○ 会議の成立について 委員 32 名中 28 名出席のため、規定により会議は成立</p> <p>2 区長挨拶</p> <p>3 中央区管理職紹介</p> <p>4 議事 (議長=佐藤会長)</p> <p>(議長)</p> <p>皆さん、こんにちは。今日は、市長との懇談会がありますので、よろしくお願ひします。</p> <p>それでは、新しい委員さんがお二人入りしましたので、その紹介をします。まずお一人目は、青年会議所より寺井翔吾さん。残念ながら、今日は欠席でした。二人目は、大原</p>		

簿記公務員専門学校より土田菜々子さん。では、一言お願いします。

(土田委員)

大原簿記公務員専門学校からまいりました、土田菜々子と申します。至らないところもあると思いますが、精一杯頑張らせていただきます。よろしくお願いします。

(議 長)

ありがとうございます。

議事に入ります。皆さん、次第をご覧になってください。今日は、議事が一つと、報告とその他というような形になっております。

(1) 令和5年度 中央区自治協議会提案事業 事業評価書について

(資料 議 1-1 1-2 1-3 1-4)

(議 長)

それでは、まず議事の(1) 令和5年度中央区自治協議会提案事業 事業評価書についてです。それでは、第1部会の松川委員からお願いします。

(松川委員)

第1部会の松川です。よろしくお願いいたします。

第1部会は、賑わい創出、交流人口、都市機能が担当です。1年間の議論の流れと成果です。最初、どこのまちをターゲットにして、何をもちて賑わいを創出しようかということを進めてまいりました。議論の結果、古町地区を食で盛り上げようということで、12月にはまち歩きを行い、まちの課題などを抽出し、その結果をもとに、「にいがた推しメシ」というプロジェクトを推進中です。新潟中心商店街協同組合の方のアドバイスもいただいてやっております。また、まち歩きをした中で、まちづくりにおける課題を抽出して、それを解決するための提言書の作成についても動いておりますが、何を骨子にして肉付けをしていくかということ、その途中の段階にあります。我々も住んでいて分かっているつものものが、実は全然分かっていない、あるいは隠れたお宝があるということ、そして、新潟市はまだまだ、特に古町はポテンシャルがあるということを感じかされた1年でした。これをうまく拾い上げて、あと1年で賑わいを創出できるような取組を進めていきたいと思っております。第1部会からは、以上です。

(議 長)

ありがとうございました。

続きまして、第2部会は米倉委員、よろしくお願いします。

(米倉委員)

第2部会、米倉です。よろしくお願いいたします。

第2部会では、防災、協働、子育て・教育、福祉、防災・防犯、生活環境と、多岐にわたる分野を管轄しているのですけれども、防災に詳しい者が多いということで、防災をテーマにすることとしました。当初は防災意識の醸成、地域防災力の向上を目的としたイベントを企画しておりましたが、1月1日の地震で根底から覆されまして、もはや防災意識自体は誰もができただろうということで、まず皆さんに防災アンケートにご協力いただきました。ありがとうございました。そこで問題となったことや気づきなどをまとめまして、それに基づいて講演会やワークショップを今年度やっていきたいと思えます。その後に、避難所運営に役立つ簡単な資料などを作成しようと計画しております。よろしくお願いいたします。

(議 長)

ありがとうございました。

続きまして、第3部会は田中委員、よろしくお願いいたします。

(田中委員)

第3部会、湊地区コミュニティ協議会の田中です。

事業評価書につきましては、お手元をご覧ください。水辺と緑化が担当の当部会におおいては、鳥屋野潟の展望をテーマとするということは記載のとおりです。そして、公開フォーラムを通じてこのようになったらどうですかということを広く発信していきます。微力ですけれども、市民がいろいろな発想、発信をすることで、少しでも動いていくように願うばかりです。以上です。

(議 長)

ありがとうございました。

続きまして第4部会、唐沢委員、お願いします。

(唐沢委員)

第4部会の唐沢です。

第4部会は、中央区の食文化、それから歴史のPRということを大きなテーマとしております。令和5年度、大きく四つのことを行いました。一つ目は、第8期第3部会で実施した市民アンケートの読み込みということで、それについて意見交換をし、観光に皆さんが関心をもっていることが分かりました。その後、勉強会を二つやったわけですが、一つは、外から見た新潟市の観光ということで、佐渡から新潟市役所に派遣されている職員の話の話を聞きました。その方の言うことには、新潟は食について非常に誇れるものがある、それから食の歴史、文化を掘り下げたらどうかという提案がありまし

た。もう一つの勉強会は、中央区の歴史・文化についての話を聞くということで、シティガイドの一期生の方から話を聞く機会を設けました。市民一人ひとりが観光資源をもっと知ることが大切という話が非常に印象に残っております。その後、ワークショップによる意見交換を行いまして、部会として取組の方向性を検討した結果、特に食に着目して、若い世代をターゲットとして中央区の食文化や歴史をPRすることに決定しました。今年度は、区内の老舗等取材して、さまざまな情報を発信していくということで話がまとまっております。以上です。

(議 長)

ありがとうございました。今、第1部会から第4部会まで説明をしていただきました。どれも素晴らしくて、1年後の成果が非常に今から楽しみです。皆さんから質問、意見等を受けたいと思います。質問、意見等がある方は挙手をお願いします。

(樋口委員)

関屋小学校区コミュニティ協議会の樋口です。

この事業評価書を見させていただきまして、令和5年度、各部会の方が本当に一生懸命、熱心に取り組んでいただいたということがよく分かります。これをもちまして、私は承認したいという意見でございますので、よろしくをお願いします。

(議 長)

では、ここで決を採りたいと思います。皆さん、拍手で承認をお願いします。

(拍 手)

(議 長)

ありがとうございました。これで議事の議事評価書については承認されたこととします。

## 5 報告

――委員活動報告――

(1) 委員からの報告について (資料 報1)

(議 長)

続きまして、報告事項に入ります。まずは委員活動報告の(1)で委員からの報告、新潟市防災会議についてです。小奈委員、よろしくをお願いします。

(小奈委員)

お願いいたします。令和5年度新潟市防災会議に出席してまいりました。開催日時は、令和6年の3月27日15時から16時です。開場は、新潟市役所本館6階講堂です。出席委員に関しましては、こちらをご覧ください。次に、背景に関しましてもこちらをお読みいただきたいと思います。

会議内容から説明させていただきます。昨年8月に委員に向け、地区防災計画書と資料が送付されました。11月には修正意見を募りまして、それを受けての修正意見新旧対照表を作成しました。それが239項目の修正があったということで、その中の主なものの3つの説明がありました。

①防災衛星無線の設置について。これは、地域防災無線が老朽化したときに、地上通信が途絶えた場合に対応できるように各区に設置されたそうです。

②天野河川防災ステーションの開設について。阿賀野川と信濃川に囲まれた治水上重要な位置にあります水防活動を行う拠点として開設されています。

③令和6年度能登半島地震に伴う修正及びその他の修正について。現時点での修正、また今後さらなる修正を検討していくと説明がありました。

続いて、報告があった内容3つです。

①新潟市から資料が配られまして、能登半島地震の被害状況などがありました。対策本部会議を7回行ったということをお話されていました。

②新潟地方気象台より、能登半島地震のデータを解析したものの説明がありました。

③北陸地方整備局新潟国道事務所、こちらからは、国道116号西バイパスの状況と、その対応などの話がありました。ここで緊急災害対策派遣隊「テックフォース」、こちらが1月3日から2月9日まで、延べ28名が被災地に支援に行ったという報告がありました。

続きまして、主な質疑内容を3つほど上げました。

一つ目、能登半島地震では、避難所のガラスを割って中に入るケースがあったが、市としてはよいのか。答えは、良い。新年度予算で、全避難所にキーボックスを設置する予定だということです。

二つ目、断層の割れ残りについて気象台の見解は、という質問がありました。これについては、研究者の中でも話が割れている、大きな地震の後にはまた起きることがあるので、注意していきたいという答えでした。

三つ目は、能登半島地震では、避難所開設をしたときに毛布などの備蓄品を配ったことから、今は在庫がないため、早く補充してほしいという要望がありました。これに関しては、1月の補正予算で補充する予定だと、少し待ってほしいとの回答がありました。

以上、報告を終わります。

(議長)

小奈委員、どうもありがとうございました。今の報告につきまして、質問、意見等は

ございますでしょうか。ある方は、挙手をお願いします。特によろしいでしょうか。どうもありがとうございました。

(2) 部会からの報告について

(議 長)

続きましては、各部会からの報告に入ろうと思います。まず、第1部会です。再び松川委員、よろしくお願いします。

① 第1部会 (資料 報2-1)

(松川委員)

第1部会の松川です。

4月の令和6年度第1部会の会議内容を申し上げます。日時、会場、出席委員等は、資料をご覧ください。

議題ですが、古町活性化の取組についてということで、今まで店を募集して独自のメニューを開発していただいて、それをお客様に広めていこうということで動いていたのですが、3月に新潟中心商店街協同組合の高見理事よりいただいたご意見を踏まえ、いろいろ修正を加えました。委員の間でも意見はいろいろあったのですけれども、メニュー開発ということではなく、お店イチオシの料理を広めていこうということで、キャッチフレーズを「にいがた推しメシ」としています。これは、推し活動という好きなアイドルとかアーティストのライブに行ったりグッズを買ったりということが今流行っていきまして、「推しメン」というのですが、それを少しもじって「推しメシ」ということで、企画の内容を変えています。

また、参加店をいかに広く知ってもらおうかということを考えて、参加店のSNSアカウントやWi-Fiの有無についても情報発信していく予定です。これは新任の土田委員からの意見がありまして、皆で気が付かなかった観点なのですけれども、例えばお店のカウンターに2次元コードを貼り、ハッシュタグを付けてSNSに投稿してもらおう。私も旅行に行ったりするとSNSに上げるのですけれども、そうやっていろいろな方からSNSで宣伝してもらい、複合的に古町のお店は美味しいということが広がって、古町に全国、全世界から人に来てもらえるような、そういう仕掛けづくりに舵を切っております。その他に、対応のマップ制作についても提案がありました。現在、募集要項の最終調整をしまして、これが固まり次第、商店街組合等の関係団体の協力を得ながら、お店の募集をかけたいと思います。

第1部会からの報告は、以上です。

(議 長)

ありがとうございました。

続きまして第2部会、米倉委員、よろしくお願いします。

② 第2部会（資料 報2-2）

（米倉委員）

第2部会、米倉です。本年度の第1回の第2部会の報告をいたします。

日時、出席者等は、資料を見てください。今回は、皆さん、大変多くのアンケートを集めていただき、本当にありがとうございました。ひとまず、さっと目を通した段階ですが、ほとんどの方が実際に自分の住んでいるところのハザードマップを見ていないか、また、見ても理解するのはやはり難しいのかなということを感じています。その他、細かいところはこれからアンケート結果を確認しまして、次に行うワークショップ、講演会に向けて、次回は少し具体的に進めていきたいと思っています。以上です。

（議 長）

ありがとうございました。

続きまして、第3部会の田中委員、よろしくお願いします。

③ 第3部会（資料 報 2-3）

（田中委員）

第3部会の田中です。

会議の概要、日時、会場等は、お手元に書いてあるとおりです。

いよいよ4月も過ぎて、具体的な討議を始めました。現況把握に加えてゾーニングなど、鳥屋野潟の大きな地図を皆で見ながら、この辺りから見る白鳥がとてもきれいだとか、いろいろな意見が出てきています。それらを今後とりまとめながら、一つの形にしていくというような作業になりますが、毎回100パーセント出席でとても皆さんのやる気が見える部会です。以上です。

（議 長）

ありがとうございました。

続きまして、第4部会の唐沢さん、よろしくお願いします。

④ 第4部会（資料 報2-4）

（唐沢委員）

4月15日の月曜日、午後1時半から第1回目の部会を行いました。中央区の老舗を

紹介するという部会のテーマでしたので、3名の学生に来ていただいて、いろいろな意見や助言をいただきました。出てきた意見は書いてあるとおりののですけれども、私が印象に残ったものをいくつかお話ししたいと思います。

まず、老舗の印象についてですが、老舗の歴史についても知る機会が少ないとか、老舗とは家族や身内で経営しているイメージがあるとか、それから老舗は年輩の方が利用するイメージがあるとか、そのようなお話が出てきました。

それから、エリアごとの印象です。万代地区は流行に敏感なイメージ、古町地区は価格が高いイメージ、それから万代地区はファッション、古町地区は食事というイメージが若い人にはあるそうです。

それから、我々、老舗を今後紹介するわけですけれども、その老舗の紹介方法については、店主や店員の顔、それから人柄等の情報があると親しみやすい、興味がもてるとか、学割情報があると若者が行きやすい、といった話がありました。

裏面なのですけれども、今後の部会活動ですが、若い方からいただいた意見を参考に、今後、我々が各老舗の取材を進めていくということです。最終的には、老舗の紹介と中央区の食文化、歴史について、A3サイズのリーフレットにまとめる予定です。以上です。

(議長)

ありがとうございました。質問、意見等がございましたら挙手をお願いします。

(北川委員)

公募委員の北川です。第1部会に質問があります。

前回の第4部会の会議で学生にお話を聞いたときに、いろいろ新潟のランチ情報とか観光情報とか、どのようなところで見ますかと聞きましたら、情報はやはり紙媒体よりもSNSが多いという話だったのです。そこで、第4部会としてもインスタなどで何か発信できるといいよねということをお話したのですが、第1部会では、その(1)の下から二つ目の点に区のホームページやSNSも活用しPRすると話し合われたそうですけれども、具体的に、例えば第1部会としてインスタをつくるとか、自治協としてインスタをつくって皆さんに発信するとか、何かそういうことをお考えなのでしょうか。

(松川委員)

第1部会の松川です。ありがとうございます。

SNSの活用方法については、学生委員である土田委員からも教えていただきながら、検討しているところです。第1部会としてつくるというよりは、例えば先ほども申し上げたのですけれども、カウンターの座ったところに二次元コードがあるとか、あとはハッシュタグを付けて投稿を促すような仕組みもあるようなので、そういう形で進めていくのと、これも提案があったのですけれども、マップを作ったときに、店の名前は端に

まとめておいて、お店ごとに二次元コードを付けたりとか、積極的に投稿してもらえ  
ような仕掛けをつくっていくと。ただ開設する、ただ投稿するよりも効果が変わって  
くるという話も聞いていますので、多くの人に見てもらえて、投稿してもらえる方法を  
学んでいながら完成品を作っていきたいと考えています。どのようなものになるかは、  
1年後にご期待ください。よろしく申し上げます。

(北川委員)

ありがとうございます。今ほどのSNS関連でもう一つ質問があるのですが、  
これは第1部会ではなくて、むしろ中央区の方たちに質問なのでは、観光客が  
新潟に来たときに観光スポットを検索したりバスを調べたりするのに、やはりインター  
ネットは必要だと思うのです。ここの下の広場のところでたまに休憩することがあ  
って、Wi-Fiを使おうと思ったら使えなかったのです。あれ、先月まで使えたのに使え  
ないと思ってインターネットで調べてみたら、先月でWi-Fiが使えなくなっているの  
ですね。もう少し調べてみたら、新潟市のホームページにマリニピア日本海ですとか、歴  
史博物館ですとか、旧齋藤家別邸とか、主要な観光スポットでWi-Fiが使えなくなっ  
ているのです。これはどういうことなのかなと思って、すごく驚いたのですけれど、  
今日の回答でなくてもいいのですけれど、どうしてWi-Fiが使えなくなってしまっ  
たのかと、今後の対応について、ぜひ教えていただきたいと思えます。

(地域課長)

中央区地域課の佐藤です。

City Wi-Fiについては、新潟市全体で廃止ということになりました。今後継続する場  
合は、施設ごとに検討ということになっておりますが、一度廃止した場合でも、例え  
ばインバウンドの関係もあり、Wi-Fiを取り入れていくということも出てくるかと思  
います。施設ごとに状況に応じた対応を考えていくというような状況になりますので、  
ご承知をお願いいたします。

(北川委員)

ありがとうございます。私も全国いろいろなところに旅行に行ったりする中で、Wi-  
Fiがあると情報も早いし通信料を使わなくてもいいということで、旅の面白さとい  
うのはすごく広がるのです。ちょっとした時間に遊びに行けたりとか、効率よく回  
れたりとか、ぜひ早く対応していただきたいと思えます。

(議 長)

ありがとうございます。ほかに何かありますでしょうか。

(松川委員)

第1部会の松川です。

実は、JR東日本新潟支社が「にいがたチョイnavi」という検索システムを立ち上げて、これはアプリではなくてインターネットで繋げるものなのですが、これだと、電車やバス、レンタカーなどの移動手段と観光情報等が連携されていて、駅ビルCoCoLoの情報にも飛べるようになっているのですが、便利になったなと思っていたらWi-Fi廃止ということで、非常に困るので復活してほしいなと思っています。

(議長)

ありがとうございます。区長、いかがでしょうか。

(区長)

全庁的な取組方針の中での変更ということですので、本庁担当課にも確認しながら、報告させていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

(議長)

ほかに何か質問等がございますか。

(樋口委員)

関屋小学校区コミュニティ協議会の樋口です。

第2部会の米倉委員にお願いなのですが、今回の震災がありまして、中央区、関屋田町の方も液状化ということになりました。これから市長との懇談会の中で話に出てくると思うのですが、「8区防災アクション2024」ということで、いろいろなリーフレットを作りますということを考えているようですが、各中学校区で作っている新潟市総合ハザードマップに、液状化についても、加えていただくように働きかけていただきたいと思います。実は私どものところ、まさか液状化になるとは思っていなかったところがありまして、大変驚いたということがありますし、西区ですとか、江南区もそういうことがあるので、ホームページで見ることできるのですが、やはりそういうものを事前に紙ベースとして各戸に配るということを、中央区の自治協議会から提案してみるというのはいかがかなと思ひまして発言させていただきました。以上です。

(米倉委員)

ありがとうございます。やはりハザードマップは、紙媒体がいいですね。細かく見られますから。あと、ホームページで、今「にいがたeマップ」というものが、災害だけでなく、いろいろ出ているのですが、それはスクロールしたり動かしたりして、また拡大もできるので、それは確かに、災害に関しては津波の到達時間だけですが、見やすいかなと思っています。ですが、やはり何と言っても紙媒体が見やすいので、それは充実するようにお話ししておきます。よろしくお願いいたします。

(議 長)

ありがとうございます。ほかに何かありますでしょうか。よろしいですか。

では、私から。昨日、新潟駅の方に用があったついでに、新潟駅を見てきました。もう東京駅のような感じ。歩いて、歩いて、商店が連なっていて、飲食街など、ものすごく広がったです。そして1階、2階、全部にお店が入っていて、とても賑わっていました。一方で、古町の方に影響が出ているのではと思うのですが、松川委員と唐沢委員、いかがでしょうか。

(松川委員)

第1部会の松川です。

私も今日、新潟駅を通ってきましたけれども、台湾のお茶のお店には150人くらいの行列ができていました。あの賑わいをどう街なか全部に広げていくか。にいがた2km、さらには各区にということを考えなければいけないのですけれども、例えば市の補助で一日500円で市内は乗り放題、広域は1,000円にするとか、万代と古町と駅と共通のセールをして、スタンプを集めると割引を受けられるとか、何かもらえるとか。ハードでなくソフト、アイデア、工夫でできることはいろいろあると思うので、それを考えていただきたい。行政は、民間のやることを後ろから押すような形で、新潟市全体が活力を上げていってほしいなと私は思っています。

(議 長)

ありがとうございます。では、唐沢委員も一言お願いします。

(唐沢委員)

私も古町で育ってきた人間ですので、古町が衰退していくというのは非常に寂しいのですけれども、古町は、やはり歴史や文化との絡みで活性化させていく必要があるのではないかと思います。

古町地区における今後のビジョンについては、このあとの市長との懇談会で質問する予定ですので、そのときに市長のお考えをお聞かせいただきたいと思います。以上です。

(議 長)

ありがとうございました。時間もきましたので、次に移ろうと思います。

## 6 その他 (資料 他1)

(議 長)

6番目のその他 日程についてです。事務局、お願いします。

(地域課)

地域課の荒井でございます。

中央区自治協議会の令和6年度の年間開催日程について、資料他1のとおりです。第9期の当初に皆様よりご承認いただきました運営方針に基づきまして、地域の声を吸い上げたり自治協議会での議論を地域にフィードバックしていただく時間を十分に確保し、より議事に集中することができるよう、今年度も基本的には隔月開催となっております。対面による会議を開催する月については、開始時刻は、本日は2時半からですが、通常は午後3時を予定しております。なお、3月については、奇数月ではありますが、第9期の最終回ということで対面による会議を臨時として予定しております。資料に記載の日程を変更、または会議を開催しない場合は、事前にお知らせいたします。会場は、都合により変更となる場合がございます。事務局からの説明は、以上です。

(議 長)

ありがとうございました。皆さん、忘れないように出席をお願いします。

それでは、3時半からは市長との懇談会です。懇談会の司会は、樋口副会長に交代しますので、よろしくお願いします。

…… (休 憩) ……

## 7 市長と自治協議会委員との懇談会

(樋口副会長)

中原市長、本日は、お忙しいところありがとうございます。

ただいまから、市長と中央区自治協議会委員との懇談会を始めます。

本日は、まず中原市長より令和6年度予算の概要についてご説明をいただきます。その後、委員の皆さんとの意見交換を行います。時間ですが、全体で約1時間を予定しておりますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。なお、意見交換につきましては、本日は自治協議会委員との懇談の場であることから、ご発言は委員の方に限らせていただきますのでよろしくお願いいたします。

それでは、市長、よろしくお願いいたします。

(市 長)

皆さん、こんにちは。今日は暖かい日になりましたけれども、暖かくなったり寒くなったりという日が繰り返し訪れているようでもありますけれども、今日は自治協議会の総会の後にお話をさせていただく時間をいただきまして、大変ありがとうございます。皆

様には、日頃から地域の協働の要としてさまざまな地域課題にご尽力をいただいております。改めて感謝申し上げたいと思います。

1月1日夕刻に能登半島地震に襲われまして、それから間もなく4か月が過ぎ去ろうとしております。新年度になりまして、被災者の皆様の立場に立って、新潟市役所も改めて気を引き締め被災者の皆様の生活再建や復旧・復興に全力であたってまいりたいと思います。本日は、こうした地震のことも含めまして、新年度予算のごく一部となりますけれども、皆様からお聞きいただければと思います。それでは、これから着座にて説明させていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

#### (1) 令和6年度新潟市予算の概要

資料に基づいて説明させていただきますので、1ページをお開きいただきたいと思っております。ご承知のように、この地震では液状化現象によって、特に道路の隆起や陥没、建物の傾斜や沈下など、被害が多く発生しまして、なおかつ状況は深刻で、特に西区の砂丘沿いや川沿い、それから江南区や中央区の一部で被害が集中的に発生しております。この被害地域と、国土交通省が液状化しやすいマップというものを出力しておりますけれども、その危険地域が重なっており、想定地域の一部でこの度の被害が実際に起こっております。

2ページです。発災後、これまで新潟市としましては、生活の再建に向けた応急的な対策に取り組んでまいりました。現在は、応急復旧から本格復旧の段階へ移行しつつあります。そこで、今後の復旧・復興に向けた施策を総合的かつ計画的に進めるため、4月1日に令和6年能登半島地震新潟市復旧・復興推進本部を設置いたしました。住宅再建の見通しが未だ立たない方や、支援を受ける手続きなどが分からないという方もいらっしゃると思います。取り残される世帯が生じないように、生活再建支援チームを立ち上げ、被災された方に寄り添ってきめ細やかな支援を行ってまいります。

3ページです。具体的な支援策となります。液状化によって非常に多くの家屋被害が発生しておりますが、またその被害の状況もさまざまです。そうしたことから、地震発生直後から国や県の支援策がもちろん出されておりますけれども、それでも支援の手が届かないところに新潟市独自の支援制度を用意してまいりました。特に被害は住宅の建物だけではなく、車庫やカーポート、門扉などにも被害が出ましたので、その復旧に対する支援策や、傾いた家を直すための地盤改良への支援、それから私道が市内でもたくさんありますので、その私道の復旧への全額助成など、被害実態に応じた支援策を実施しております。先ほどご説明しました生活再建支援チームを中心に、これらの支援制度と被災者をしっかりつないで、被災者の方に生活再建の見通しをもっていただけるよう取り組んでまいります。

4ページです。令和6年度予算の規模ですが、4,185億円となりました。令和6年度は、令和5年度の補正予算と合わせて15か月予算として一体的に編成し、災害からの

復旧に切れ目なく取り組みながら、ご覧の三つの力点を作りました。「安心・安全」「活力・交流」「子育て・教育」によって、「選ばれる都市新潟市」の実現に向けまちづくりを前進させていきたいと考えております。この予算は、過去最大の規模となり、7年連続の収支均衡予算とすることができました。

5ページです。ここからは、三つの力点ごとにお話しさせていただきます。一つ目は「安心・安全」ということで、市民生活や経済活動の土台になる大切な部分ですので、しっかりと取組を進め、災害に強い安心して暮らせる新潟市を目指していきたいと考えております。地震関連の補正予算に加え、今年度予算では、この度の地震で浮かび上がってきた課題に取り組むことで、防災力を高めていきたいと思っております。

6ページです。今回は、被害を拡大させた要因の液状化現象について、専門家による調査、分析を行います。この調査をもとに、街区単位での液状化対策につなげていきたいと考えております。また、避難所の関係では、鍵を持っている職員の到着が遅れ、ご心配をおかけしたという事例も発生しましたので、津波到達度が早い沿岸部において、避難所で津波警報と連動して鍵が取り出せるキーボックスの導入を進めます。また、この度の地震では、改めて災害への備えの重要性を認識しましたので、市民の皆様の防災意識がより一層高まるよう取り組んでまいります。

7ページです。防災対策のほかにも、市民の命と健康を支える救急活動の機能を向上させます。現在は、受け入れ先の病院が決まるまで救急車から何度も病院に電話をしておりますが、ICT技術によって複数の病院へ照会を一斉に行うシステムを導入します。さらにバス交通については、ドライバー不足が大変深刻な状況ですが、年末に新潟交通と協定を締結しましたので、新潟交通と新潟市役所、市民の皆さんとが一緒になって取り組み、路線バスネットワークの維持に向けて頑張っていきたいと考えております。

8ページです。二つ目の力点「活力・交流」では、人が行き交い活力あふれる新潟市に向け取り組んでまいります。皆さん、ご存知のとおり全国的に人口減少が進んでおり、新潟市でも人口は2005年の81万人がピークで、以降、減少局面に入っております。将来推計としては、新潟市の2020年の人口78万人が2050年には約61万人と、17万人減少します。特にまちの活力に重要な15歳から64歳までの生産年齢人口の減少、グラフの青色の部分になりますが、ここが大きく2020年から2050年までに15万人も減少する予測となっております。この15万人というのは、今の西区の人口と同じですので、30年間で西区と同じ規模の労働力が失われるということで、非常に厳しい予測となっております。このような状況の中で、いかに社会経済の活力を維持向上させるかということが課題でありますけれども、人口の減少のスピードを遅くしていくことが重要と考えております。

9ページです。この急速な少子高齢化と人口減少が要因となり、すでに皆様もお感じになっているかもしれませんが、人手不足、人材不足といったことが深刻化しております。これに対して新潟市としては、地域経済の活力向上に、一つ目は「人を呼び

込む」、二つ目は「人を育てる」、三つ目は「人を活かす」という三つの柱で取り組み、対応してまいります。

10 ページです。対応の一つ目では、企業誘致のさらなる強化や移住・定住への取組によって人を呼び込んでいきます。企業誘致の取組としては、にいがた2km内の新設ビルにIT企業の進出が昨年度は過去最高となる22社の進出が決まり、800人を超える雇用を生み出しました。3年間では46社、約2,000人の雇用を創出し、一定の成果が出ております。また、市内8区に整備された工業団地60ヘクタールについては、現時点で9割近くが決定済みで、4地区は完売となっております。コロナ禍から経済状況は徐々に回復傾向にあり、今後、需要もさらに上向いていくと考えており、新しい工業用地造成に向け準備にかかりたいと考えております。令和6年度は国内5,000社にアンケート調査を行い、需要が確認できれば令和7年度に開発提案の募集を行います。

11 ページです。対応の二つ目では、デジタル化による競争力強化を支える人材育成への支援などによって人を育てていきます。今後、人手不足が深刻さを増すと予測されている中で、デジタル技術を活用することによって業務の効率化や人手不足の解消、企業に新たな価値を生み出すことが期待できます。一方で、市内企業でデジタル化が遅れている現状があります。デジタル化をどう進めればいいのか分からないといった声もいただきますので、新潟市では企業のデジタル人材育成に対する支援や企業の採用活動を後押ししてまいります。

12 ページです。対応の三つ目では、創業や成長分野への挑戦に人を活かすための取組です。帝国データバンクが行った2022年の調査によれば、県内企業で黒字のまま廃業した企業が約6割で、また、後継者がいない企業が約5割とのこと。企業としての価値が十分あるにもかかわらず、廃業せざるを得ない状況は誠に残念で、市としてもこれは何とか支援できないかと考えました。そこで、昨年度から、企業が〇〇会社という名前を明らかにして後継者を求めるオープンネームというやり方で事業承継を推進する事業を開始しました。昨年度は約5,000の事業者アンケートを行い、事業承継につながった例も出てきております。まずは市内企業の皆さんからアンケートをきっかけに事業承継について検討いただければと思っており、今年度以降もさらにアンケートの対象を増やし、事業承継を後押ししてまいります。そのほかにも、フルタイムでの勤務が難しい子育てや介護などに取り組んでいる方と、飲食業や宿泊業などで短時間の労働力が不足している業界をマッチングするサービスにも新たに取り組みます。

13 ページです。農家の高齢化が進展しまして、そうした中で後継者がいないということが深刻になっておりますが、後を継ごうと思ってくれた農家の後継者、家族ということになりますが、そちらへの支援を行い、担い手の確保に取り組みます。地域経済を活性化していくために、本市の豊かな田園資源を活かした儲かる農業の実現に取り組みます。また、全国トップクラスの本市の農業を持続可能なものにするため、より効率的に営農できるよう簡易な圃場整備や農地集約化にかかる経費の補助などを始めます。

14 ページです。約60年振りとなる新潟駅の改築を長い間進めてまいりましたが、3

月 31 日に新しいバスターミナルがスタートし、駅を拠点に新たなバス路線もでき、駅南北の通行が可能になりました。まだ集計段階ですが、このバスターミナルの完成によってバス利用者数も上向いているようで、交通結節点としての機能が一層充実しました。また、駅ビル 2 階には 3 月 1 日に観光案内センターがオープンし、そして昨日、4 月 25 日には CoCoLo 新潟がグランドオープンとなりました。新たな賑わいが生まれ、新潟市全体にいい影響が出てきてくれることを期待しております。さらに鳥屋野潟南部でも倉庫型商業店舗を核とした開発が予定されており、今後人の流れが変わり、新潟の活力向上に向けた大きな転換点になることを期待しております。

15 ページです。令和 6 年は明るい兆しが大変多くあります。佐渡島の金山については花角知事と渡辺佐渡市長が 3 月末にパリを訪問して、ユネスコ大使に直接、文化遺産としての価値や地元の熱意を伝えてきたとのことですので、今年こそは世界文化遺産登録が実現してほしいと願っております。新潟市には佐渡航路がありますので、佐渡市との連携をさらに密にして観光面で一緒に盛り上げていきたいと考えております。ほかにもサッカーのアルビレックス新潟が引き続き J 1 の舞台で戦いますし、また野球のオイシックス新潟アルビレックス・ベースボール・クラブが新たにプロ野球 NPB イースタリーグの公式戦に参加します。また、国際線の運航再開、1 月にはトキエアが就航し、本日仙台便も無事飛び立ったようであります。コロナ禍で止まっておりましたクルーズ船も昨年度は 12 回、今年度も現時点で 8 回の寄港が決まっております。令和 6 年は、観光やスポーツ面で明るい話題が多くありますので、交流人口の拡大につなげてまいりたいと思います。

16 ページです。ここからは、三つ目の力点「子育て・教育」です。新潟市が行いましたアンケート調査では、理想の人数の子どもを持ってない理由として、多くの方が経済的・精神的な負担や仕事と子育ての両立の難しさを上げています。子育て支援は少子化対策としても、また若い世代の皆さんから新潟に住んでもらうためにも大変重要でありますので、子育て世帯のニーズに応じた取組をさらに充実させてまいります。

17 ページです。これまでも子育て支援について力を入れてまいりましたが、市長 1 期目にはこども医療費助成を 2 度拡充し、対象を小学 6 年生から高校 3 年生までとするなど、子育て世帯の皆さんから喜ばれました。そして今年度からは、妊産婦の医療費助成の所得制限を撤廃しました。こども医療費助成と同じ内容で通院 530 円、薬代無料という妊産婦の医療費を助成するもので、所得制限の撤廃で一昨年度の実績は 19 人でしたが昨年度は 7,000 人を越えまして、飛躍的にご利用いただいております。さらに産後 2 週間と産後 1 か月に行う産婦健診の受診費用を助成する予定であります。これで妊娠から出産、高校 3 年生までの医療費助成について、切れ目なく支援ができるようになりました。また、出産後の心身の不調や子育てへの不安を解消するため、医療機関で子どもを見てもらいながらお母さんから心身ともにリラックスしてもらう産後ケアの自己負担額を大幅に引き下げ、昨年は一昨年の 3 倍も使っていただいております。今年度は、双子や三つ子などの多胎児への支援を拡充し、より利用しやすくし、出産後の不安

の解消につなげていきたいと思ひます。

18 ページです。教育の面です。教育委員会では、中学校での全員給食化を実施します。現在、給食が出る中学校は市内 57 校のうち 29 校で、それ以外の中学生は弁当の持参か民間のランチを注文する方式ですが、令和 7 年 8 月から全員給食化、即ちすべての中学校で生徒全員が給食になります。しっかりと準備を進め、すべての生徒に温かく栄養バランスのよい給食を提供できるようにしたいと考えております。また、特別支援教育や通級指導教室についても、各学校に対するサポートを充実させ、子どもたちの健やかな成長を後押ししていきます。

19 ページです。新潟市でも民間企業に対する男性育休取得への支援や、ワークライフバランスに配慮した働きやすい職場づくりへの表彰などを通じまして、働き方改革を応援しております。そうした取組を通じて市民一人一人が住んでよかった、働いてよかったと思っただけの新潟市につながっていくと思っっています。

20 ページです。ここで興味深いデータを紹介したいと思ひます。国土交通省が発表しているものになります。左上の表は、二人以上の勤労世帯の所得の上位 40 パーセントから 60 パーセントまでのいわゆる中間層所得の経済的な豊かさを比較したものです。可処分所得、即ち手取り収入から食費や住居費、光熱水費といった基礎支出を引いて、さらに通勤にかかる時間をコストとして捉え、それも収入から差し引いたもので、経済的な余力を表しています。経済面でもっとも豊かな都道府県はと尋ねれば、皆さんが思い浮かぶのは東京だと思ひますが、平均的な収入の中間層世帯で見ますと、表のように東京が全国最下位の 47 位になっております。東京は世帯全体で見ると年収は高いのだと思ひますが、生活費も高く、結果的に余暇などに使える経済的な余力は残らないということかと思ひます。一方で、新潟県は全国 7 位ということで、東京の 13 万 5,000 円と比較して 10 万円近くも上回っており、経済的な豊かさもあることがデータから明らかになっております。新潟は、都市と田園が調和し、暮らしやすい点がほかにはない強みだと思っっておりますが、経済的な豊かさもち合わせているという点ももっとアピールしていきたいと思ひます。

21 ページです。最後となりますが、令和 6 年度予算の概要について、一部を皆さんにご紹介させていただきました。まずは地震から一日も早く平穏な日常を取り戻せるよう、被災された方々の生活再建に全力を尽くしてまいります。また一方で、都心軸が生まれ変わるまちづくりの転換期でもあり、交流人口拡大のチャンスでもあります。今後急速に進む少子高齢化、人口減少社会への対応として、経済活力を生み出すとともに子どもから高齢者まで笑顔あふれる新潟市を築いていくことで、特に流出の大きい若い世代からこのまちを選んでもらうことが重要だと認識しております。以前から申し上げておりますように、まちづくりは私たち行政だけではできません。自治協議会の皆様と連携させていただきながら、新潟の活力を生み出し、選ばれる都市新潟市を実現していきたいと思ひますので、引き続き新潟市政へのご支援、ご協力をいただけますようよろしくお願い申し上げます。私からの説明は、以上となります。ありがとうございました。

(樋口副会長)

市長、どうもありがとうございました。

続きまして、区長より、中央区における令和6年度の主な取組についてご説明をお願いいたします。よろしくお願いいたします。

(区 長)

それでは、私から、中央区における令和6年度の主な取組についてご説明いたしたいと思えます。26ページをお開きいただけますでしょうか。こちら、区ビジョンまちづくり計画に掲げます四つの「目指す区のすがた」に沿ってご説明してまいりたいと考えております。

はじめに、「賑わいと活力あふれ訪れたい拠点のまち」についてです。1番目、「日和山浜魅力創出事業～ハマベリング!!!～」は、令和5年度から実施している事業です。良好な自然環境に恵まれた日和山浜を地域資源として活用し、多様な主体が連携しながらイベントの実施や環境整備を行うことで、若い世代の交流人口、関係人口の創出から移住・定住につなげることを目指しております。環境整備として行っておりました公園の遊具整備や駐車場の整備が完了したことから、今年度をグランドオープンと位置づけ、明日、27日にオープニングイベントを実施する予定としております。その下、新規事情の「越後線高架下利用促進事業」は、鉄道の高架化により生まれた水島町地内の新潟鳥屋野線に隣接した高架下に、南北市街地の市民の交流の場となる公園を整備するものです。今年度は測量と設計委託を行い、令和7年度の完成を目指してまいります。この二つの事業が、令和6年度の区長提案事業となります。その下、新規事業でございますが、「だれでも2kmストリート事業」は、にいがた2kmエリアにおいて人中心のウォークブルな空間形成のため、視覚障がい者用の誘導ブロックの整備に向けた検討を行うものです。

次に、「共につながり安心して暮らせるまち」です。「認知症地域支えあい推進事業」は、認知症になっても安心して暮らせる地域づくりをめざし、地域への啓発のほか、はいかい模擬訓練開催の支援を引き続き行います。

次に27ページをお開きください。「水と緑に囲まれた自然と都市が共生するまち」についてです。「都市公園活性化事業」は、障がいの有無にかかわらずだれもが使いやすい公園や周辺整備の検討を行い、インクルーシブな空間づくりに向け取組を進めてまいります。その下、「鳥屋野潟環境啓発事業『とやの物語』」は、鳥屋野潟の認知度や環境意識の向上のため、学校への出前講座、鳥屋野潟一斉清掃、他の潟との連携などを実施してまいります。その下、「区民協働森づくり事業」は、汐見台周辺における防風対策として、地域や団体、有識者らと協働してクロマツの密度管理や隣接する海浜植物園への植栽などを行います。

次に、「歴史と文化を受け継ぎ発展するまち」です。新規事業の「みなとまち新潟 次

世代に向けた古町芸妓魅力発信事業」は、学生の芸妓体験や芸妓との交流などをおして若い世代へのPRを強化し、認知度向上を図ってまいります。また、市内外に向けて魅力を発信してまいりたいと考えております。その下、「地域のお宝！再発見事業」では、中央区の魅力を再認識していただくため、新潟シティガイドによる解説付きまち歩き「えんでこ」や日本海に沈む夕日を見ながらウォーキングを行う「夕日ウオーク」を実施するほか、地域の魅力をSNS等により発信してまいります。

令和6年度もこれらの事業の実施によりまして、区ビジョンまちづくり計画で区の将来像に掲げる「にぎわう都心、豊かな自然、みなとまち文化が織りなす活気あふれる拠点のまち中央区」の実現を目指してまいりたいと考えております。

私の説明は、以上となります。ご静聴ありがとうございました。

(樋口副会長)

区長、どうもありがとうございました。

では、続きまして意見交換に移らせていただきます。できる限り多くの委員の方からご発言いただきたいのですが、時間に限りがあるため、各部会からお一人ずつご発言をしていただくことといたします。お手元の令和6年度市長と自治協議会委員との懇談会各部会質問事項一覧をご覧ください。なお、今回の一覧表の中ですが、第2部会の高見委員が欠席との連絡がございましたので、代わって第2部会の米倉委員からお願いすることにします。それでは、第1部会からよろしく願いいたします。松川委員、よろしく願いいたします。

(松川委員)

第1部会の松川と申します。よろしく願いいたします。

市長にご質問でございます。市長には、市政にご尽力いただき、地震の対応にも当たっていただき、本当に感謝しております。

昨日も新潟駅があれだけ賑わって、今日も大変な賑わいでしたが、私が一つ懸念しているのは、駅が栄えてまち滅ぶにならないかと。新潟駅で全部抱え込んでしまう懸念がないかということを考えております。これは、地方都市で時々見られる現象であります。それから、南北のバスターミナルもできましたけれども、本数を見ると、駅止まりがいかかわらず南部から来ると多くて、直通の便数が極めて少ないということ懸念しております。駅のせっかくの賑わいをまちなかにもっと広げる工夫が必要だと思います。例えば九州の大分市では、駅ビルとまちなかで共同セールを行ったり、バスの運賃を市中心部は1回100円、一日乗車券も市内中心部限定バージョンは200円に設定した結果、まちなかの空き店舗がほぼ解消し、経済効果が現れているという話も聞いております。市と新潟交通は新しい協定書で利用促進を謳っていますし、先ほど市長からもチケット3,000円分の配布、それから無料デーということでお話がありました。熊本では無料デーは投資した額の20倍の経済波及効果があると聞いております。北九州でも去年3回

やって大変な効果が出ておりますので、すごく期待しておりますが、さらに、やはり新潟交通は運賃が高いという話をこの会でも皆さんがおっしゃられています。市長も、過去にアニメと提携した一日乗車券なども提示されておりますので、どうにか交通の後押しをするような形でこれを通年設定にするようなことはできないか。あるいはこれを持って行くと、まちなかで割引や優待を受けられるような、そういう仕組みづくりをできないかということをお私に期待しております。

さらに、新潟市にはJRもありますし、水上バス、レンタサイクルもあります。これらをつなげることでより移動がしやすく、活力にあふれて暮らしやすいまちが実現すると私は考えますけれども、今の施策メニューに加えて、こういうことをさらに拡充していくお考えはあるかどうか、市長にその辺をお伺いしたいと思います。よろしくお願いたします。

(市長)

どうもありがとうございました。大変たくさんのアイデアをおもちで、素晴らしいなと思っております。新潟市としては、これまで駅周辺整備事業を進めてきまして、在来線の高架化、それから新しいバスターミナル、そして昨日CoCoLo新潟が開業して、あとは新しい万代広場を造るということが一つの大きな課題になっておりますけれども、概ね終局に向かってきているかなと考えております。そういう中で、私としては、にいがた2km構想というものを出して、駅を基点にして万代、そして古町までのこの区間を新潟の顔とも言えるべき商店街が三つあるところですので、ここを相乗効果によって元気を出していこうということで取組を進めてまいりました。一定の成果は出てきていると思っておりますけれども、ご指摘のように、今回、新潟駅が変わって、そこだけが栄えてほかのところにはいい影響が出ないのではないかとということについては、やはりしっかり連携をさせながら、万代にも、また古町にも人が流れてくるように取り組んでいく必要があると思っております。

それから、さまざまなアイデアをいただきました。確かにごもつともで、新潟市としても今年度、無料のバスの日を2回設けて、それをきっかけにして市民の皆さんからバスに乗っていただくと。乗っていただくことによって年間を通じてバスに乗る回数を少しでも増やしていくということが重要かと思っております。新潟市と新潟交通だけ頑張ったとしても、乗る人がいないと結局ご承知のとおり経営としては成り立たないわけです。コロナ禍の中でも乗る人が減少して新潟交通がかつてないような経営危機に陥って、新潟市としても若干ですけれども支援をさせていただいたということですので、昨年度の協定の中で新潟交通と、それから新潟市と、そして市民ということを加えさせていただきました。ぜひ皆さんからも多く乗っていただきたいと思っております。

そして、あまり適切な言い方ができないのですが、やはり稼げるところはあるわけです。それは、やはり中心地、ここでたくさん人に乗ってもらうことによって、新潟交通の経営というものが安定する。少し誤解を受けるかもしれませんが、我々

が無理を言って新潟交通の経営が悪化するような、足を引っ張るようなことになっては元も子もないといえますか、やはり、今、協働という言葉がありますけれども、新潟交通と、それから新潟市と、やはり市民が協働しながら新潟交通がこういう市民目線のご意見とかご要望が実現できるような環境をつくっていくということも、私は新潟市として大事なことでないかと考えているところであります。今回、いろいろ貴重なご意見をいただきましたので、参考にさせていただきながら、引き続きこうしたご意見が一つでも二つでも取り入れられるように取り組んでまいりたいと思います。ありがとうございました。

(樋口副会長)

ありがとうございました。

続きまして、第2部会に移らせていただきます。避難行動要支援者の第二次避難所の確保についてということで、米倉委員からお願いしますが、その米印の1番と2番は一覧表の下のほうに書いてありますので、ご覧いただきたいと思います。では、米倉委員、お願いします。

(米倉委員)

第2部会の米倉です。第2部会からは、学生委員が質問する予定でしたが、残念ながら急用のため欠席となりましたので、私が代わりに質問させていただきます。

質問事項としまして、避難行動要支援者の二次避難所の確保について。第2部会では、福祉や防災の分野を扱っていますので、質問させていただきます。元旦に発生した地震から浮かび上がった問題についてです。能登半島地震では、新潟市内の多くの地域で避難指示が出されました。その中には常時介護や医療が必要な方、自力で生活できない方もいます。また、各避難所に車いすの方も多く集まりました。新潟市では、このような方に向けた二次避難所、福祉避難所となりますけれども、そういうものを設けておりますが、中央区では現在明生園のみを指定しています。今回の能登半島地震でも、能登の方では二次避難所の不足が大変問題となっております。今後、こちらでも大地震が発生する可能性も非常に高くなってきておりますので、避難が必要とされたとき、この1か所で足りるのか、また、そういう方の避難や避難所について、市としては何か対策を考えているか、市長のお考えをお聞かせください。よろしく申し上げます。

(市長)

どうもありがとうございました。1月1日の地震に際しましては、津波警報などが出まして、本日お集まりの自治協の皆様からもそれぞれの地域において適切な対応を、また行動を呼びかけていただいたということで、ご支援やご協力をいただいたことについて、まずは感謝申し上げたいと思います。

状況としましては、避難生活が困難な高齢者や障がい者、妊婦など、何らかの特別な

配慮を必要とする方が避難するための福祉避難所は、2011年の東日本大震災をきっかけに急速に進んでおります。中央区には、委員ご指摘の市立明生園のほか、協定を締結している民間の福祉施設が6施設あり、計7施設の福祉避難所があります。不足する場合には、学校などの指定避難所に福祉スペースを設置することや、他の区の施設の活用、またはホテル、旅館などの民間施設に依頼するなど、状況に応じた対応を行うこととしております。この度の能登半島地震では、中央区で最大で43の避難所が開設され4,000人を超える方々が避難しました。今後、市では、この度の災害の課題について振り返りを行って検証を行う予定ですので、避難所についても検証を加え、今後も検討を重ねていきたいと思っております。ありがとうございました。

(樋口副会長)

ありがとうございました。

では、続きまして第3部会で「ラムサール条約湿地自治体」に認証されたことに伴う鳥屋野潟の位置づけや取組、「ラムサール条約都市推進プロジェクト・チーム」に関しまして、田中委員、よろしくお願ひします。

(田中委員)

第3部会、湊地区コミュニティ協議会の田中であります。

私も第3部会は、水辺、緑化を所管としておりまして、最初、中央区の水辺、緑化と言えばどこかと。それから、日本海、信濃川、鳥屋野潟、一つの区でこれだけ広大な自然、そして水辺空間をもつというのは、本当に恵まれた区だと思いますし、もちろん新潟市にとっても大変な財産だと思うわけですが、その中で特に鳥屋野潟があまりうまく活用できておらず、活用できる可能性があるのに認知されていないのではないかと。ということで、鳥屋野潟をテーマにしてイメージ図の作成や公開フォーラムなどを年度内に開催したいということで活動しております。

2年前に新潟市は「ラムサール条約湿地自治体」に認証されましたが、新潟市は16の潟、湿地をもつ中でも鳥屋野潟は都心部に極めて近い、世界的にも非常に珍しい潟だと思うのですが、地域における湿地の保全、賢明な利用がなされているかということ、どうもそうではないということで、市役所内に部局を横断したプロジェクト・チームを設置されたということで、とても力強い気持ちがあるのですが、この辺のところでは県やこの底地の所有者とか、さまざまな問題をもっている鳥屋野潟を有効、賢明な利用の推進等に向けた将来的な目標がありましたら、その辺をお聞きしたいですし、また、県、その他に対して新潟市のリーダーシップをどのように発揮されていくのかについてお聞きしたいと思います。よろしくお願ひいたします。

(市長)

ありがとうございました。お話しいただいたとおりで、鳥屋野潟は駅の近くで、中央

区のだ真ん中にあれほど広大な自然が豊かな潟があるというのは、新潟市の財産だと思っております。また、県立のスポーツ公園なども隣接し、素晴らしい環境にあると思っております。一昨年、ラムサール条約の湿地自治体認証を受けまして、改めて私自身もスイスに行かせてもらいまして、世界のそうした、潟と申しますか、湿地自治体の皆さんがこれを大事にしているということを改めて認識させていただきました。新潟市も、日本の中では初めて湿地自治体認証を受けた鹿児島の出水市でしょうか、そこと二つの都市が自治体認証を受けましたけれども、こうした名誉ある認証を受けましたので、これをきっかけに新潟市内にある潟というものを大事に守り育てていく必要があると思っております。

プロジェクト・チームを設置しまして、これからということになりますけれども、新潟市では周辺の道路を整備して、県で護岸の整備をしていただくことになりますけれども、そうしたところとうまく連携しながら、この潟というものを磨き上げていくというのでしょうか、市民の皆さんからも、またこうした自然が好きな全国の方々からも訪れていただけるように、もっと理想の形に近づけていく、磨き上げていくと。そういうことが重要になるのではないかと思います。そのためにも、地域の皆さんと一緒にやってこの潟をよくしていく必要があると思っておりますので、引き続き我々もしっかり情報を発信していきたいと思っておりますので、ご協力をよろしくお願いいたします。

(樋口副会長)

ありがとうございました。

続きまして、第4部会、古町地区における今後のビジョンについて、唐沢委員、お願いいたします。

(唐沢委員)

第4部会、栄地区コミュニティ協議会の唐沢と申します。よろしくお願いいたします。

古町地区における今後のビジョンについて質問させていただきます。第4部会は、歴史、文化、産業、まちなみを所管分野として活動しています。古町地区において、かつては多くの人で賑わっていたラフォーレ原宿新潟の撤退、三越の閉店、そして西堀ローサも来年の3月末までにはテナントが退店することになり、空き店舗も多く見られるようになりました。古町地区は、三越跡地に複合型タワーが建設予定されており、再開発が進むエリアとされている一方で、古町芸妓、料亭文化や風情ある街並みが現存し、湊町にいがたの歴史を感じることができます。このように歴史的エリアであることを踏まえつつ、今後、三越跡地や西堀ローサをどのように活用するのか、また、古町を住まうまちとして定住人口を増やすのか、人を呼び込むまちとして人の流れを古町に向けて交流人口を増やすのか、今後の古町地区のビジョンについて市長のお考えをお聞かせください。よろしくお願いいたします。

(市長)

ありがとうございました。にいがた 2 kmの中でこれが私たちも一番考えていかなければいけないのが、やはりこの古町地区だと思っております。古町で三越や大和が撤退した後、新型コロナウイルス感染症が発生しまして、やはり大変打撃を受けたと私自身は認識しております。一方で、新潟駅は、先ほど申し上げたように、新しい施設などができました。今後の古町はということでは、今年度、三越跡地の解体が始まりますし、再開発も本格化してまいります。また、西堀ローサについては、新潟市が代物弁済ということで取得することを決めまして、来年の3月のテナント退店に向けて、今後さまざまな方の意見を聞きながらこの活用の仕方について考えていきたいと思っております。古町には、やはり新潟の歴史とか文化、これが残っているのだと思っております。ここを大事にしながら古町の活性化に取り組んでいきたいと思っております。古町にしかない魅力を活かして、町屋を活かした誘客促進に取り組む民間の動きも出始めております。古町樽拳さんや、関係者の皆さんと一緒に古町の活性化に努めてまいりたいと考えております。

(樋口副会長)

どうもありがとうございました。まだまだ市長と意見交換をしたいという雰囲気がございますけれども、時間的に制約がございますので、これをもちまして終了とさせていただきます。

(市長)

すみません、もう1点お話させてください。皆さんのところに、4人目の新潟市名誉市民に佐野藤三郎さんが選定されましたという資料を追加で配らせていただきました。昨年度の3月6日の新潟市議会におきまして、全会一致で佐野藤三郎さんを新潟市名誉市民に選定していただきました。佐野藤三郎さんは、亀田郷土地改良区の前理事長で、新潟のまちづくり、それから新潟の農業の発展、国際交流の分野においても大変功績の大きい方でありました。こうした立派な方が新潟にいたのだということを市民の皆さんから改めて認識していただいて、こうした方を刺激にといいますか、感化されながら我々も頑張っていきたいと考えております。以上、報告とさせていただきます。

(樋口副会長)

これをもちまして、市長と区自治協議会委員との懇談会を終了させていただきます。市長、本当にどうもありがとうございました。

(市長)

どうもありがとうございました。今年度もよろしく申し上げます。

(樋口副会長)

	<p>では、また議長を佐藤会長に交替しますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>8 閉会</p> <p>(議 長)</p> <p>皆さん、ありがとうございました。</p> <p>本日はこれで閉会となります。</p>
県議・市議	7名
傍 聴 者	1名
報道機関	1社